

# 第四次県立病院中期計画の取組状況に係る経営協議会の評価結果(令和3年度)

滋賀県立病院経営協議会（以下「協議会」）は、「滋賀県病院事業の業務運営における目標管理等に関する規程」に基づき、「滋賀県立病院中期計画」（以下「中期計画」）において定めた目標の進捗状況を評価することとしています。

このたび、協議会が中期計画の取組状況に係る報告および各病院の取組等の内容を検証し、評価がまとまりましたので、結果を公表します。

## 1. 評価の概要

評価項目	協議会評価	自己評価			
		総合	小児	精神	経営
顧客の視点 【医療の質の充実】	B	B	B	B	B
財務の視点 【経営基盤の強化】	B	B	B	B	A
内部プロセスの視点 【人材の確保・病院マネジメントの向上】	B	B	B	A	B
学習と成長の視点 【人材の育成・意識改革の推進】	B	B	C	B	B

※「総合」は総合病院、「小児」は小児保健医療センター、「精神」は精神医療センター、「経営」は病院事業庁経営管理課

### ◆ 経営協議会の意見

病院の評価とおおむね一致するものと認める。

#### < 評価の方法 >

評価	内容および目安となる達成度
S	計画を上回った (達成度 120%以上)
A	計画どおり (達成度 100%以上 120%未満)
B	おおむね計画どおり (達成度 80%以上 100%未満)
C	計画を下回った (達成度 60%以上 80%未満)
D	成果が出ていない (達成度 60%未満)

## 2. 視点ごとの評価

※「総合」は総合病院、「小児」は小児保健医療センター、「精神」は精神医療センター、「経営」は病院事業庁経営管理課

### 顧客の視点【医療の質の充実】

協議会評価 : B

#### ◆ 経営協議会の意見

- 各病院共に、県立病院としての機能を発揮して、対応されている状況であると思う。現在も行っていると報告があったが、県南部に拠点がある中で、湖北や湖西の患者にとっても必要な専門医療が届き、地域の医療機関との連携を含め、適切な医療が受けられる体制となるようにしていただきたい。
- 総合の地域医療連携について、3病院と連携と協力に係る協定を締結したとあるが、病院規模からみて少ないのでは。守山・草津方面は恐らく、回復期あるいは慢性期の民間病院が多いのではないかと思うので、中小病院や民間病院との連携をより深め強め、患者さんの流れを良くすることに努めれば、更に平均在院日数を減らすことができるかと思う。
- 最近、周囲でも子どもがコロナに多く罹っており気になっていたが、家族での入院にも対応されていると聞き、安心した。また、どこの病院も医師確保には苦労すると聞いていたが、新たに小児のアレルギーや発達外来、精神の思春期外来等、気になっていた分野に対応いただけ嬉しく思う。
- 病院の県立病院のあり方ということで、パンデミックという異常事態に対しどういう機能を持つのかという視点を、今回のコロナを契機に少し織り込んでいけばより良いのではないか。
- 地域医療構想は各二次医療圏において推進することになっている。三次中核病院としての県立病院のあり方として、医師派遣も含めて更に多くの病院の地域連携を図り、平均在院日数を更に短くして、医療機能を更に高めていくことが必要であり、今後の方向性としてお願いしたい。
- 一般診療、コロナ対応ともに、県立3病院間で様々な連携をしているという話だった。令和7年1月には総合病院と小児保健医療センターの統合も控え、更に綿密な連携が深まっていくことと思う。

### 財務の視点【経営基盤の強化】

協議会評価 : **B**

#### ◆ 経営協議会の意見

- 当年度純損益の増減が約10億1900万のプラスであり、その中で、コロナ病床確保事業費補助金が9億9900万増加しており、こちらが黒字化の主な原因である。コロナ関連の補助金のプラス面はどここの病院もあると思うが、それ以外では業績が悪化している病院も多い中、病床確保の事業費補助金を除いたところでは、入院患者の減少や、PCR検査や給与等の様々なコロナのコストアップ等もカバーして、前年度を維持できている。
- 営業収益だけでも何とか黒字になる数字を挙げていて、素晴らしいことだと思う。なお、医療収益の改善は昨年度のコロナ時との比較であり、特殊な状況下での推移としか理解できない。元年等、プレコロナの通常時の営業収入との比較が気になるところである。
- コロナの中でも補助金と関係なく利益が上がっている事など、努力の成果だと思う。小児や精神などの中には、政策医療として県立病院が果たすべき内容があると思うので、収入増加のために入院患者を増やすという発想ではなく、必要な医療が適切に提供され、安定経営ができるようにしていただきたい。また、入院治療優先ではなく、在宅療養を継続できるような外来診療の中での経営をお願いしたい。
- 小児の財務の視点の文言に、「入院患者が減り収支が難しい中、今後は入院治療を推進し、医療収益の確保を図る」旨書かれており、経営管理に関する評価として当然こういう書き方になると思うが、入院治療を推進し経営状態を改善するだけでなく、コロナ関連の中で病床数を減らしたことで、検査や入院が頭打ちで延期せざるを得ない状況に陥ったため収支が難しいということならば、入院治療の推進というより、今減ってしまっている、あるいは待っていただいている方たちにきちんと入院いただく体制を整えることで、結果として収益が上がるということかと思う。
- 他の業績管理レベルの高い病院(日赤病院等)の例について検討し、担当者ごとにコントロール可能な指標による業績管理手法の開発ができればと感じる。

## 2. 視点ごとの評価(続き)

※「総合」は総合病院、「小児」は小児保健医療センター、「精神」は精神医療センター、「経営」は病院事業庁経営管理課

### 内部プロセスの視点【人材の確保・病院マネジメントの向上】 協議会評価 : B

#### ◆ 経営協議会の意見

- 医師や看護師をはじめとした職員が、コロナ禍の中でのがん患者の診断や治療を誠心誠意頑張ってくださっていることにお礼を申し上げます。とともに、医療者が本当に疲弊していないか、それが医療に影響を及ぼしていないかが、非常に気がりである。
- どの病院でも、相当数のコロナに感染した職員が出ており、その意味でも医療機能の低下が免れず、罹患していない職員に過剰負担が掛かっているというのは、どの病院でも現状その通りである。この状況下でも、県立3病院はよく頑張っておられる。
- 看護職の離職率5.9%は凄いことだと思う。働き方改革の取組みを県内の他病院の手本となるよう、推進されることを期待している。

### 学習と成長の視点【人材の育成・意識改革の推進】 協議会評価 : B

#### ◆ 経営協議会の意見

- 小児ではC評価となっていたが、コロナ禍では、小規模な病院ほど研修や研究への参加困難が顕著だったかと思う。総合病院と統合すれば、このあたりの解消もされるかと期待している。